

令和元年9月18日

各位

令和元年第三回定例会を終えて（幹事長談話）

無所属 東京みらいは、知事提出の全議案に賛成しました。

「未来の東京」への論点では、2040年代の東京のイメージが示され、また、先日、宮坂学氏が副知事に選任されました。これは、新たな官民連携のあり方を模索し、組織横断的なチャレンジをしていくという、新しい都政の始まりの合図だととらえています。その意味から、「都政改革を新たなステージへと進化・深化」させていく都政改革においては、2040年代を担う若手職員に主体的に取り組んでいただくことを期待します。

東京には、時代の変化をとらえ社会課題を解決しようとする企業やNPOなどの様々な主体が集まってきています。民間のアイデアや取り組みを阻害することなく、その力を最大限発揮してもらえるように規制緩和などの環境整備を積極的に推進していくことが必要です。また、リソースが限られる中では、行政の果たすべき役割を不断に見直し、行政にしかできないことに注力していくべきであるとの立場から、今後の決算特別委員会に臨んでまいります。

一般質問においては、「幸福度」に着目し、これまで当たり前とされてきた考え方の転換を図るべきとの立場から質問を行いました。先日の台風では各地で甚大な被害があり、電気や水など生活基盤の復旧に時間を要しています。今後は太陽光、太陽熱や井戸水など、より身近にあるエネルギーをできる限り有効活用し、災害時においても地域でライフラインを維持できる体制の構築、「暮らしの転換」が求められているのではないかと指摘しました。

また、「都民の就労を応援する条例」の基本的な考え方のベースとなる、ソーシャルインクルージョンとは、みんなが一歩ずつ歩み寄って、誰もがよりよい社会をつくる一員として暮らしていく考え方であり、これからの東京が目指すべき社会像だと考えます。ソーシャルファームの設立を契機に「価値観の転換」が進むことを期待するものです。

加えて、見逃してはならないポイントとして、地方から大都市に、女性が集まる傾向があげられます。2018年の東京への女性の転入超過数は約4万8千人で男性の1.5倍です。育児をサポートしてくれる親が近くにいないという大都市特有の状況も踏まえるべきです。ゆりかご東京事業を継続しさらなる子育て支援を進めることや一般質問で指摘した未受診妊婦へのアウトリーチなど、孤立しがちな子育て世帯への支援について、さらなる充実を求めるものです。そういった取組が、長期的には、児童虐待の根本解決へもつながると考えます。

最後に、「4年に一度じゃない。一生に一度だ」のラグビーワールドカップがいよいよ2日後に開幕します。「献身」と「貢献」、そして敵味方関係のないお互いへのリスペクトが根底にあるラグビー精神を見習い、私たち無所属 東京みらいも、チーム東京の一員として、引き続き、前向きな提案をすべく努力していくことをお誓い申し上げます。

無所属 東京みらい
幹事長 奥澤高広

本件に関するお問合せは、下記にお問合せください。

TEL:03-5320-7278 FAX:03-5388-1829 E-mail:team.tokyo.mirai@gmail.com